

2008年9月

原子力空母の

横須賀配備

2010年

今、私たちの町に

何が起きて

いるのか



2010.6.12発行

発行●原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

〒238-0002 横須賀市大滝町1-26 清水ビル3階 横須賀市民法律事務所方

電話:046-827-2713 FAX:046-827-2731

放射性 廃棄物

コンテナの中身は

運び出された

4つのコンテナが

G・ワシントンから

原子力空母

定期修理中の

2010年4月16日



放射性廃棄物を運び出した輸送船

クレーンが吊り上げたコンテナ

原子力空母
(ジョージ・ワシントン) 01

2008年9月に
横須賀を母港とした
原子力空母
ジョージ・ワシントンは、
2009年、2010年と
2年続けて、横須賀基地で
定期修理を実施しました。
コンテナに詰められ
輸送船が運び出した
放射性廃棄物は、
この定期修理に伴って
生じたものです。

作業中の原子力空母の飛行甲板



原子力空母の定期修理は、
放射線管理の仕事を
任務とする
米国から派遣された
650人の技術者によつて
行なわれました。
派遣元は
ピュージェット・サウンド
海軍造船所。



心配なのは、 ピュージェット・サウンド 海軍造船所等で行なわれている 艦船の修理時に、多くの 放射能事故が起きてくるはず。



横須賀市の原子力総合防災訓練に登場した防護服 (06.10.24)

赤字は造船所及び基地で発生した放射能事故

| | |
|------|--|
| 1971 | 米原潜ウッドロウ・ウィルソン、グアムで一次冷却水の圧力低下、メルトダウンの危険。 |
| 1971 | 米原潜スヌーク、故障で船体を傾けながら横須賀に入港、放射能汚染の疑い。 |
| 1975 | 米潜水艦母艦プロテウス、グアム湾内に、一次冷却水の移し替え作業中? (高放射能の一次冷却水を大量に放出、付近の海を汚染。 |
| 1976 | 米原潜から補給船に移していた冷却水500トンが川に漏出。 |
| 1977 | 米ピュージェット造船所で、2週間に4件の放射能汚染事故、大気中に漏れ出た放射能のために3人の労働者が被曝。 |
| 1978 | 米原潜ハフナー、高放射能の一次冷却水を大量にピュージェット造船所内に流出。 |
| 1979 | 米原子力空母ミッツ、原子炉部分で一次冷却水漏れ。 |
| 1980 | 米原子力巡洋艦ロングビーチ、沖縄で高放射能検出。 |
| 1980 | 米原潜ホークビル、ピュージェット造船所で冷却水漏れ、5人が汚染、2人が内部被曝。 |
| 1982 | 米原潜サム・ヒューストン、ピュージェット造船所で冷却水漏れ、1人が汚染。 |
| 82以前 | 米原潜フォーン・ステューベン、原子炉が緊急停止、数時間漂流。 |
| 1983 | 米原潜サーゴ、ハワイで冷却水排出時に、放射能漏れ。 |
| 1984 | 米原子力空母エンタープライズ座礁。 |
| 1985 | 米空母キティホーク、日本海でソ連原潜と衝突。 |
| 1986 | 米原子力空母カール・ビンソン等3隻の乗務員に原子炉の安全運転テストを行ったが不合格。 |
| 1986 | 米原潜ナサニエル・グリーン座礁、米原潜アトランタ座礁。 |
| 1988 | 英原潜レンリウシオン、一次冷却水がとまり、あわやメルトダウンの事故。 |
| 1988 | 米原子力空母アイゼンハワー、商船と衝突事故。 |
| 1989 | 米原子力空母アラバマ・リンカーン330ガロンの低放射能冷却水を、川に放出。 |

原子力艦船の事故は日常的に起きている!

| | |
|------|--|
| 1989 | 米原潜フィンバック、資格のない水兵に訓練記録を改竄して原子炉操作権限を与え、乗組員が低レベルの放射性物質を含む機械を川に投棄。 |
| 1990 | 原子力空母ニミッツの4名の水兵、不適切な訓練によって、放射能安全を調べる定期点検に広くこまかしが行われていると内部告発。 |
| 1991 | 原子力巡洋艦ロングビーチ、バルブ弁故障のため、サンディエゴ湾内に一次冷却水が漏れる。他にも4つの港で放射能漏れ事故、乗組員の2名が脳腫瘍、2名が白血病。 |
| 1992 | 原子力空母エンタープライズ、造船所で放射能を帯びた冷却水が漏れて、作業員9名と4室が汚染され600万ドルの浄化作業を要した。 |
| 1994 | 原子力空母エンタープライズ、ドライドックで修理中に原子炉室で火災が発生し、放射能物質が漏れた。 |
| 1995 | 原子力巡洋艦カリフォルニア、放射能を帯びた水が漏れ、3名の水兵が汚染。1名の水兵が原子炉室の機器のテスト中の事故により火傷。 |
| 1995 | 原潜ソルトレイクシティー、酩酊した乗組員が原子炉を当直監視し、司令官解任。 |
| 1996 | ピュージェット造船所で、原子力艦アーカンサスから放射性蒸気が漏れたが、米海軍は15時間事故を州政府と市民に通報せず。 |
| 1996 | 原潜サンファン、グロートン基地で、水兵1名が原子炉への破壊行為の疑いで免職。原子炉の制御棒へ電力を供給するワイヤーが切断されていた。 |
| 1997 | 原潜ホーツマス、基地での作業中に、2人の労働者が被曝。 |
| 1998 | アイダホの海軍原子炉実験施設から高レベルの放射能が検知されたため、周辺の住民200名が避難。 |
| 1999 | 原子力空母ステニス、母港のサンディエゴ港内で座礁し、原子炉が2基とも緊急停止。 |
| 2000 | 原潜オリンピア、ハワイの造船所で修理中に放射性冷却水が漏れ、3名の労働者被曝。 |
| 2000 | 露原潜クルスク、爆発事故を起こして、原子炉ごとパレンツ海に沈む。 |
| 2001 | 英原潜タイアレス、地中海で、あわやメルトダウン寸前の事故。 |

この放射能事故の実態を見れば、
横須賀で放射性廃棄物を出すような
定期修理が行なわれること自体が
問題だと言わざるをえません。

それだけではありません。
もっと重大なことが隠されていました。

原子力艦船の修理は 日本ではしない。 放射性廃棄物は 艦外に出さない

これが本来の米国の約束だったのです。

ここが
ポイント!

注 1964年の米国政府の外交文書(エドワード・メモワール・覚書)は、原子力艦船の「動力装置(power plant)の修理を日本国又はその領海内において行なうことは考えられていない」と約束しました。ここでいう「動力装置」は、「原子炉からプロペラシャフト」までのシステム全体のこと。つまり、原子炉だけではなく、原子炉の周辺を含む動力装置全体の修理を日本の港ではしない。これが米国政府の本来の約束でした。



外務省さん
それって、
おかしくない?

修理をしない場所を 書き換えた米国

●原子炉だけではなく、動力システム全体の修理はしないという約束が生きたままだと、横須賀を母港とした原子力空母の定期修理ができない。そこで米国は、新たな外交文書(ファクトシート・2006年)を作り、修理をしない場所を「原子炉」と狭く書き直し、横須賀での定期修理を可能とした。これが「書き換え問題」です。

●外務省地位協定室長は、「動力装置」から「原子炉」への、言葉の書き換え自体は認めながらも、こう言います。

確かに言葉は違います。しかし、言葉は違っても同じ意味です。修理はしないとしたのは「原子炉」だけです。

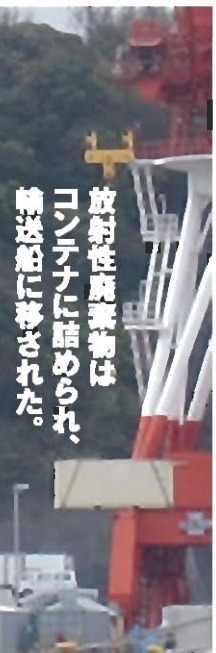
外務省の
説明

●放射性廃棄物の艦外運び出しについても、外務省は次のように説明します。

確かに覚書では「艦外に出さない」と書いてあります。しかし、それは「陸揚げしない」という意味です。

外務省の説明

外務省さん
それって、
おかしくない？



放射性廃棄物は
コンテナに詰められ、
輸送船に移された。

●原子力空母ジョージ・ワシントンの定期修理で出た放射性廃棄物をクレーンで吊り上げ、輸送船に積み込むのは「陸揚げ」ではないと外務省は言います。
●しかし、誰が見ても間違いなく、放射性廃棄物は艦の外に出ています。黒を白と言いくるめる外務省の言い方を、皆さんはどう思われますか。

1984年の外交文書(エード・メモワール)は、日本に初めて原子力艦船が寄港する際の米国の約束です。被爆国日本への原子力艦船の寄港には、国民だけではなく、多くの科学者も反対の声をあげました。横須賀でも延べ70万人の反対運動が、町を揺るがしました。そうした声を背景に、日本政府が米国にさせた約束が

**原子力艦船は日本では修理をしない
放射性廃棄物は艦外に出さない**でした。

米本国の造船所や基地で、定期修理の際に放射能事故は多発しているのです。

だから私たちは、日米両政府に求めます。

約束は守ってください。

危険な原子力空母の

定期修理はしないでください。



もうひとつの 大切なこと

核密約によって始まった 空母の横須賀母港は ただちに見直しを。

● 2010年3月「核密約」の調査結果が公表され、米艦船が核兵器を搭載したまま在日米軍基地に入港していたことを否定できない、ご迷惑をお掛けしました、と岡田外務大臣は吉田市長に言いました。えっ、それで終わりですか？

● 1973年、空母ミッドウェイが横須賀を母港とする際、核兵器を積んでいますと米国が正直に言ったら、横須賀配備はありえなかつた。なぜなら日本政府は表向き、核兵器の持ち込みは非核三原則によつて断る、と言っていたのですから。でも、核は積んでいないことにしようという日米両政府の「密約」があつて、空母は横須賀を母港としたのです。

● 「密約」が明らかにされた以上、「密約」によつて成立した合意そのものを見直すのは当然のこと。そう思いませんか。



空母ミッドウェイが積んでいた核兵器のひとつ：B43核弾頭（水爆）
爆発力1メガトン 4.09m×直径0.46m 962kg